

放射線科

【診療科概要】

放射線科診療は放射線治療、放射線診断、核医学の各領域から成り立っている。放射線治療においては、悪性腫瘍に対するリニアックによる外照射を CT の位置決めによる治療計画によって施行している。また、PET/CT の画像との連携による治療計画も可能となっている。画像診断に関しては当科には CT2 台（1 台は 64 列のマルチスライス CT、1 台は 8 列のマルチスライス CT）、MRI2 台（1.5T）、DSA2 台、CR システム等の診断機器を有し、放射線科医がひろく画像診断報告書を作成している。PACS が導入され院内ではフィルムレスにての運用を行っている。また、近年は病診連携に積極的に取り組み、地域の各医療機関よりの各放射線検査を放射線科にて直接受け付け、診断を行っている。核医学に関しては、SPECT 装置により各核医学検査を施行するとともに、PET/CT が導入され、検診を含めた活用を行っている。

【目標と理念】

基本方針

- ・ 丁寧な患者に信頼されるような診療を行うこと。
- ・ 医療情報、学会発表等に、日頃から関心を持ちアップデートな診療を行うこと。
- ・ 患者にわかりやすい説明を行い、インフォームドコンセントに基づく診療を心がけること。
- ・ 病診連携の理念に基づいた診療を行うこと。

課題目標

- ・ 治療外来においては、インフォームドコンセントの理念に基づいた、わかりやすい患者への説明を目標とする。
- ・ 診断部門では、正確でわかりやすいレポートを速やかに作成する事を目標とする。
- ・ 病診連携においても各依頼医へ、正確かつ丁寧な情報を提供することを目標とする。

【到達目標】

放射線治療部門においては放射線治療の適応を十分理解し、実際に治療計画装置を操作し、自ら放射線治療計画を行えるようにする。診察室において頭頸部領域や婦人科領域等の基本的な診察がおこなえるようにする。また、患者にわかりやすい説明を行い、インフォームドコンセントに基づく診療が実際におこなえるようになることなどが到達目標となる。診断部門においては放射線被曝が人体に及ぼす影響についての十分な理解、造影剤の注入方法と造影によって得られる画像に関する理解および実技、断層像についての解剖学的理解、診断各論として①中枢神経の画像診断、②頭頸部の画像診断、③呼吸器疾患の

画像診断、④循環器疾患の画像診断、⑤悪性腫瘍の画像診断、⑥腹部、骨盤（消化器系）の画像診断、⑦腹部、骨盤（泌尿器系）の画像診断、⑧骨盤（女性生殖器）の画像診断、⑨骨軟部組織の画像診断、⑩小児の画像診断、等についての修練を目標とする。核医学部門においては各検査の原理および臨床に関する理解、PETの原理および臨床に関する理解等を目標とする。総合的に放射線科専門医の取得を到達目標とする。1年次と2年次に関して基本的に目標は同じであるが、2年次においてはより習熟度を深め、臨床的に自ら確実かつ正確に診療を行えることを目指す。